

北日本新聞八月十二日海外面の記事

人種差別は了りかにおいて最も身近でありながら最も深刻なものである。なぜ何一つ罪のない黒人戒殺されなければならぬのか。この記事は黒人青年が白人警察官に射殺された事件についてのものである。市民同士ではなく、市民と警察の対立である。女子事態を悪化させている要因だと思う。市民を守る

はずの警察が、市民を殺害するというのは、市民に与える怒りや混乱を招くことになるだろう。

また、この記事に書かれているデモは、多くの発砲があり重傷者や逮捕者が出ているが、市民が平然と銃を所持しており銃を使用するというアメリカ社会に私は恐怖や驚きを感じてしまう。こういったことは私は、日本とアメリカの大きな違いの一つだと思う。このような武器は、危機的状況で使用される

得ない場面でのみ使うべきだと思ふので、他  
 人を傷つける凶器として使つてほしくないとい  
 う風にもこの記事から感じられた。  
 黒人差別は、数十年前から存在していな  
 が、現在も解決が見えない了りかの課題ど  
 ころう。肌の色だけで相手を判断し、暴力を  
 ふるう、ましてや殺人を犯すといふのは許さ  
 ねざる行為だと思ふ。オバマ大統領も黒人ど  
 ころから、人種差別に対する策は必ず持つて  
 いると思ふ。差別は黒人だけの問題ではなく、

アメリカ全国民が抱える問題だと認識しなけ  
 ればならないはずだ。白人だけがアメリカ人  
 ではない。黒人も紛れもない了りか人なの  
 である。人間は生まれながらにして平等なの  
 である。だとすれば、人種差別はこれに反し  
 ているのだはないかと私は考える。白人と黒  
 人が皆、平等で仲の良い世の中が本来の了り  
 力の姿なのだと思ふ。暴力も分離も偏見も  
 ない平和な了りか社会が実現するのを私は  
 望みにしたいと思ふ。